



HOMO FABER

Crafting a more human future

Homo Faber : Crafting a more human future 2020 Living Treasures of Europe and Japan

会期：2020年9月10日（木）～10月11日（日）

会場：フォンダチオーネ・ジョルジョ・チーニ

（イタリア・ヴェネチア／サン・ジョルジョ・マッジョーレ島）



© Courtesy of the Fondazione Giorgio Cini

- HOMO FABER（ホモ・ファベール）2020 は、ヨーロッパ最高峰の職人技を新たな文化的側面から紹介する展覧会の第二回目です。
- 今回は、人間国宝の称号を受けた日本人作家を特別ゲストとして招待。漆芸や染織など、日本の伝統から生まれた至高の作品を展示します。
- 世界有数のデザイナーやキュレーター、建築家が、会場のフォンダチオーネ・ジョルジョ・チーニ内に17の展示室を構成。さまざまな角度から名匠の技に迫ります。
- 会場では職人による実演も開催。卓越の技を間近に見ることができます。

ヨーロッパの職人技を紹介する展覧会「ホモ・ファベール」が、今年も風光明媚なヴェネチアのフォンダチオーネ・ジョルジョ・チーニを会場に1ヵ月間開催されます。ヨーロッパの名匠の優れた技巧を軸に17の展示とインスタレーションで構成。今年には日本の優れた職人たちを特別招待作家に迎え、長年大切に守り伝えられ、ヨーロッパの技巧にも大きな影響を与えた日本の伝統技にもフォーカス。失われつつある伝統技法から最先端の現代技術に至るまで視野を広げ、さまざまな素材や手法による作品を多数紹介いたします。

Organized by



MICHELANGELO
FOUNDATION
FOR CREATIVITY
AND CRAFTSMANSHIP

In partnership with



JAPAN FOUNDATION



FONDAZIONE
COLOGNI
MESTIERI D'ARTE



FONDAZIONE
GIORGIO CINI



HOMO FABER

Crafting a more human future



Laila Pozzo © Michelangelo Foundation

17 の展示は、以下の世界的なキュレーターやデザイナー、建築家によって企画・構成されています。

ミケーレ・デルッキ Michele De Lucchi (建築家/イタリア)

ジュディス・クラーク Judith Clark (ファッションエキシビションデザイナー、キュレーター/イギリス)

深澤 直人 Naoto Fukasawa (デザイナー、多摩美術大学教授、21_21 DESIGN SIGHT ディレクター/日本)

ダヴィッド・カメオ David Caméo (陶磁器研究家、パリ装飾美術館元ディレクター/フランス)

ジョン・ブロンシェール Jean Blanchaert (ガレリア・ブロンシェール代表/イタリア)

ステファノ・ボエ Stefano Boeri (建築家/イタリア)

ロバート・ウィルソン Robert Wilson (舞台監督、ビジュアルアーティスト/アメリカ)

セバスチャン・ヘルクナー Sebastian Herkner (デザイナー/ドイツ)

サイモン・キズストン Simon Kidston (ヴィンテージカーブローカー、専門家、コレクター/イギリス)

内田 篤呉 Tokugo Uchida (MOA 美術館館長、箱根美術館館長/日本)

川内 倫子 Rinko Kawauchi (写真家/日本)

フレデリック・ボデ Frédéric Bodet (セーヴル陶磁器美術館元キュレーター、陶磁器研究者/フランス)

ステファノ・ミチェリ Stefano Micelli (工芸研究者/イタリア)

シルヴァン・ロカ Sylvain Roca (インテリア&舞台美術家/フランス)

アレッシンドロ・ペドロ Alessandro Pedron (建築家、教授/イタリア)

Organized by



In partnership with





HOMO FABER
Crafting a more human future

来場者は、ヨーロッパの名匠の技、伝統、工房の様子、革新的な手法、高度な創造性を紹介する数々の見事な展示を通して、クリエイションの中心である人、技、ユニークな背景、土地の影響、名作の価値を高める多様な素材を探求し、ヨーロッパの正真正銘見事な職人技を見出します。

「ホモ・ファベール 2020」では、ヨーロッパと日本の文化的な関係性にもフォーカス。日本が名匠を「人間国宝」（重要無形文化財保持者）として認定していることに敬意を表し、人間国宝の見事な技が生きた作品——巧緻を極めた磁器、漆塗のハープ、手染めの着物——などを紹介します。人間国宝の製作風景を写真家の川内倫子が撮り下ろした写真作品の展示も行います。

会場は、サン・ジョルジョ・マッジョーレ島にある敷地面積 4,000㎡を誇るフォンダチオーネ・ジョルジョ・チーニ。通常は一般公開されていない圧巻の建築も一見の価値があります。2018 年 9 月に行われた第一回の「ホモ・ファベール」には、410 名の職人やデザイナーが参加。900 点の名作と 91 回にわたる実演が行われ、のべ 62,500 名が訪れる話題の展示となりました。

展示だけでなく、名匠と直接出会い、熟練の技を間近に観賞するなど、多様な体験の機会が用意されているのも本展の特徴です。製作風景をとらえた写真や映像作品は、まるで世界を旅しながら実際に名匠の工房を訪れているようで、世界観をより身近に感じられるはずです。世界の名だたるラグジュアリーブランドのものづくりを支える職人技や、プッチーニのオペラ『蝶々夫人』の舞台製作の過程にも触れることもできます。

会期中は、フォンダチオーネ・ジョルジョ・チーニの敷地のほかにも、「In the City」と題したサテライト展がヴェネチアの街の各所で行われます。展示を巡りながらヴェネチア特有の入り組んだ道を散策すると、その途中に歌劇場「フェニーチェ」の工房、ムラーノ島のバロビエール&トーゾのガラス工房、ヴィヴァルディのバイオリン、ドムス・グリマーニの展示などが現れ、ヴェネチアに継承されているバラエティ豊かな職人技を目にするでしょう。

ヨーロッパのハイレベルな職人技と日本の素晴らしい伝統を丁寧に取り上げることで、ものづくりに全身全霊を捧げる名匠たちに敬意を表します。暮らしに大きな価値を与え、優れた工芸の力を今日に示す彼らは、まさに“生きる宝”と呼ぶべきでしょう。

——ヨハン・ルパート（ホモ・ファベール 2020 主催者／ミケランジェロ財団共同設立者）

手によるものづくりが魂や心理を表すことで、いったい何が生まれるのか。ホモ・ファベール 2020 は、その真理を追究します。繰り返しになりますが、日本からの招待作家と共にヨーロッパの類いまれな才能の数々がこのヴェネチアの美しい会場に集結し、創造性に対する新たな視点を提示する、貴重な機会になるはずです。

——フランコ・コロニ（ミケランジェロ財団共同設立者）

Organized by



**MICHELANGELO
FOUNDATION**
FOR CREATIVITY
AND CRAFTSMANSHIP

In partnership with



JAPAN FOUNDATION



**FONDAZIONE
COLOGNI**
MESTIERI D'ARTE



**FONDAZIONE
GIORGIO CINI**



HOMO FABER
Crafting a more human future

展示内容

1. Porcelain Virtuosity (磁器の技巧) 会場: Biblioteca del Longhena

ヨーロッパと日本から職人技が生きた現代磁器の数々を紹介します。青木克世（日本）、タムシン・ヴァン・エッセン（イギリス）、ルース・ギュルヴィック（フランス）などの作家に加え、マイセン、セーヴル、ニンフェンブルク、ベルナルドのメーカーも参加。キュレーションは、セーヴル国立陶磁器美術館やバリ装飾芸術美術館のディレクターを歴任したダヴィッド・カメオとキュレーターであり磁器専門家のフレデリック・ボデが担当します。

2. Pattern of Crafts (工芸の多様性) 会場: Sala Barbantini

サン・ジョルジョ・マッジョレ聖堂前の広場に描かれている幾何学模様をモチーフに、ドイツ人デザイナーのセバスチャン・ヘルクナーが日本とヨーロッパの職人とともに、大理石、モザイク、寄木細工、織物など、さまざまな技法へと展開。デザインの特徴をそれぞれの手法で反映させながら、名匠たちの技がいかに唯一無二のものであるかを明らかにしていきます。

3. Dressing a Diva (女神の衣装) 会場: Archivio Duse

1980 年以来、舞台劇やオペラ、バレエ、映画、テレビ番組のために、数々の時代衣装を手掛けてきた経験豊かなテイラー、ステファノ・ニコラオ。財団創設者、ジョルジョ・チーニの妻で、女優のリダ・ボレリに敬意を表し、リダのオリジナルのコスチュームをはじめ、ニコラオの代表作や近作を紹介していきます。ジョルジョ・チーニ財団の舞台・オペラ研究所の映像や写真、アーカイブ資料をふんだんに使用して、女神の魅力を際立たせる匠の技に迫ります。

4. 12 Stone Garden (12 の石庭) 会場: Cenacolo Palladiano

伝統技術を修得し、“生ける文化財”として高く評価されている日本の人間国宝、12 名の作品を展示します。深澤直人と MOA 美術館／箱根美術館館長の内田篤呉が、着物、漆塗のハープ、竹の花籠など、圧巻の作品を選び抜きました。また、デザイナーの深澤直人が伝統的な日本庭園に思いを馳せながら、12 個の大理石を用いたエキシビションを構成しています。

5. The Ateliers of Wonders (魅惑の工房) 会場: Chiostro dei Cipressi

写真家、川内倫子の作品をヒノキが立ち並ぶルネサンス様式の回廊に展示します。世界が認める写真家が、「12 Stone Garden」で紹介される 12 名の人間国宝の工房を訪問。時代を超えて受け継がれる技を用いながら、伝統を革新へと変えていく職人たちの姿をつぶさに撮り下ろしました。

6. Masterful Gestures (匠の手仕事) 会場: Vestibolo Cenacolo

壮大な空間のなかでは、時代を超えて今日に残るヨーロッパと日本の職人たちの傑出した技巧、繊細な手業など、永久の美を担う技の数々が観客の目前で繰り広げられます。キュレーションはミケランジェロ財団のクリエイティブティ&クラフツマンシップ部門が担当します。

7. The Modern Artisan Project (現代の職人プロジェクト) 会場: Sala Borges

イタリアのデザイン学生とイギリスの腕利き職人が、現代の技を駆使したサスティナブルでラグジュアリーなカプセルコレクション「Designed in Italy and crafted in the UK」を発表。YOOX NET-A-PORTER と、第 21 代ウェールズ公が設立したプリンス財団の支援の下に行われた 1 年間のプロジェクト。デジタルデータの洞察と職人の織の技術が、いかにラグジュアリーファッションにおける持続可能な生産システムに変革を与えるか。YOOX NET-A-PORTER GROUP の 20 周年に合わせて発表となるコレクションは、レオナルド・ダ・ヴィンチの作品や、イギリスとイタリアの織の技術に発想を得たものになるでしょう。

8. Italy and Japan: the Marvellous Liaisons (イタリアと日本：繋がりゆく至高の技) 会場: Sala dei Chiostro dei Cipressi

実演やワークショップ、展示を通して、日本の文化から影響を受けたイタリアの職人技にフォーカスします。茶会を開催するほか、小原流ヴェネチア支部が 600 年の歴史を誇る日本のいけばなを披露。キュレーションは、コロニ手工芸財団が担当します。

9. Singular Talents – The Red List (類いまれな才能——レッドリスト) 会場: Sala delle Fotografie

失われつつある伝統的な職人技法を守り続けるヨーロッパの現代の名匠 12 名の仕事に迫ります。本展のために製作された映像に登場する、アコーディオン、馬具、銀細工などの技術は、イギリスの British Heritage Crafts Association が作る「絶滅危機にある工芸」のリストから、ミケランジェロ財団が選定したものです。

Organized by



In partnership with





HOMO FABER
Crafting a more human future

展示内容

10. Blossoming Beauty (咲き誇る美) 会場: Sala Bianca

インテリアデザイナーで舞台美術家のシルヴァン・ロカがデザインした幻想的なフラワーガーデンで、ヴェネチアのガラスメーカー、ヴェネーニがフラワーアーティストと協働した花瓶コレクションを展示します。さらに、フィリッパ・クラドック、ヘイコ・カリトウィッチ、ニッキ・ティブルズ、アンナ・テン・ドンケラー、ルイス・ミラー、ホワイト・ペッパー、マンタス・ペトルスケヴィーといった著名なフラワーアーティストたちが、職人の知と技から生まれる豊かなもののづくりを、満開に咲き誇る花と捉え、それぞれの花瓶にふさわしい美しい花束をデザインします。

11. Next of Europe (次世代に向けて) 会場: Sala degli Arazzi

トップクラスの職人技を誇る名匠たちのなかでも、教育やトレーニングを通じて次世代への技の伝授に力を注ぐ人々の作品を紹介します。会場では、“生きる宝”と呼ぶべき名工たちの実演も実施。ヨーロッパ最高峰の技の一つひとつがいかに繰り出されるかに迫るまたとない機会です。キュレーションはギャラリストであり、古美術商、アーティストとしても活躍するジャン・ブロンシェールが担当。会場デザインはミラノのトリエンナーレデザイン美術館会長も務めるイタリア人建築家のステファノ・ボエリが手掛けます。

12. Mechanical Marvels (エンジニアの神技) 会場: Padiglione delle Capriate

1960年代に実業家のジャンニ・アニェッリが特注した3人乗りフェラーリをはじめとする貴重なヴィンテージカーに、イタリアの自動車工場、クレモニーニの修理工が新たな命を吹き込みます。次世代の職人、デザイナー、エンジニアにも焦点を当てたコラボレーションプロジェクトも展開。さらに、ランボルギーニ社の未来の車とトップクラスの職人技が融合する様子も紹介します。キュレーターはスイス・ジュネーブ在住のヴィンテージカー専門家、サイモン・キッドストンとヴェネチア大学教授でイタリアの工芸を研究するステファノ・ミチェッリ。

13. WAITING with peace and darkness (平和と暗黒の狭間で) 会場: Piscina Gandini

演出家、ビジュアル・アーティストとして活躍するアメリカのロバート・ウィルソンは、自身の作品から、ブッチーニのオペラ『蝶々夫人』に代表される日本に影響を受けた舞台美術に光を当てます。ウィルソンは独自のアプローチにより、1960年代に作られたスィミングプールをドラマティックな舞台装置へと転換。照明、音響、衣装、装飾、映像、小道具、家具など、名だたる職人と細部まで造りにこだわった空間は、見るものを一気に夢の世界へ。ウィルソンが日本の舞踏家、花柳寿々紫（はなやぎすずし）を自ら撮り下ろしたビデオポートレイトシリーズも展示します。

14. Details: Genealogies of Ornament (ディテール: 装飾の系譜) 会場: Sal del Convitto

腕時計、靴、着物、宝飾、香水をはじめとした、世界の名だたる最高級メゾン15社のものづくりの技を、ジュディス・クラークが解剖し、多角的な展示へと発展させます。15世紀のイタリアの画家、アントネロ・ダ・メッシーナの初期の作品『書斎の聖ヒエロニムス』から発想を得た名工の実演スペースを会場に再現。Sale dei Convittoの美しいウォールパネルとタイル張りの床が、繰り広げられる職人技と共鳴しムードを高めます。実演は、City and Guilds of London Art Schoolの学生が担当します。

15. Magnae Chartae (マグナカルタ) 会場: Sala del Piccolo Teatro

日本とヨーロッパの紙職人にインスピレーションを受けたミケーレ・デ・ルッキが担当。製紙、製本、カリグラフィなど、紙にまつわる多様な技術に光を当てます。来場者は職人たちによる紙づくりを間近で見学するとともに、「インク・バー」ではモンブラン社の金ペン万年筆の試し書きもできます。高度な技術を重ね合わせ、手作業でつくられているイタリア製壁紙や、ベルリン在住の紙職人、ガンゴルフ・ウルブリヒトの工房をイタリアの写真家、スザンナ・ポッツオリが撮り下ろした作品など、ほかにもさまざまなアートワークが展開します。

16. Doppia Firma (技の融合) 会場: Garden

ヨーロッパの気鋭デザイナーとイタリアの名匠が協業し、現代的なアプローチから独創的な作品に取り組むこの展示室では、「アウトドア・リビング」をテーマに、ベテランデザイナー、ユーゴ・ラ・ピエトラをはじめとした12組が参加。中庭を舞台に、デザイナーの創造性と職人たちの技が競演します。キュレーションはコロニー手芸財団とインテリア雑誌「Living Corriere delle Sera」が担当。会場デザインはサラリス・スタジオが手掛けます。

17. Eilean (アイリーン号)

1936年製造の伝説のヨット「アイリーン号」を、イタリアの名工が修復。サン・ジョルジョ・マッジョーレ島沖合に停泊するこの船は、ゲール語で「小さな島」を示すバミューダ帆船で、元はスコットランドの船大工が製造したもの。そのデザイン的美しさや厳選された素材の一つひとつ細かに検証しながら、新たな命を吹き込んでいきます。監修を手掛けるのは、イタリアの高級腕時計ブランド、オフィチーネ・パネライ。

Organized by



In partnership with





HOMO FABER

Crafting a more human future



CRAFTING A MORE HUMAN FUTURE
2020 LIVING TREASURES OF EUROPE AND JAPAN

Robilant © Michelangelo Foundation

【展覧会概要】

Homo Faber : Crafting a more human future Living Treasures of Europe and Japan

ホモ・ファベール：工芸が描く、より人間らしい未来 欧州と日本の“生きる宝”

会期：2020年9月10日（木）～10月11日（日）

会場：フォンダチオーネ・ジオルジョ・チーニ（イタリア・ヴェネチア、サン・ジオルジョ・マッジョーレ島）

※チケットは、下記ウェブサイト、および現地窓口にて販売いたします

<https://www.homofaberevent.com>

Organized by



In partnership with





HOMO FABER
Crafting a more human future

HOMO FABER とは

スイス・ジュネーブに拠点を置く国際非営利団体、ミケランジェロ財団の Creativity and Craftsmanship 部門が企画するイベント。世界に残る崇高な職人技を保護し、デザインとのつながりを見出すことを目標に掲げています。ミケランジェロ財団は、伝統に培われた確かな技を基盤とするものづくり文化が現代の世界経済を支えていると考え、職人の支援、後進の育成、次世代に続く文化の創造を支援します。時代を超えて受けつがれる職人技こそがヨーロッパの経済、文化の中心であることを認識し、そこからさらなる豊かな感性、そして世界をリードする力が生まれると信じています。 fondazionecogni.it

HOMO FABER 2020 には以下の団体が賛同しています。

コロニー手工芸財団

ミラノに拠点を構える 1995 年設立の非営利団体。「文化の再生」を目標に文化、科学、教育の側面から、美術工芸の保護と普及、次世代の育成に尽力しています。 fondazionecogni.it

ジョルジョ・チーニ財団

ヴェネチアに本部を置く非営利文化団体。ヴェネチアとその周辺域、サン・ジョルジョ・マッジョーレ島を国際的な文化拠点とすることを目的に、1951 年ヴィットリオ・チーニが設立。人文研究の拠点として、教育、社会、文化、芸術分野における支援活動を行っています。 cini.it

国際交流基金

1971 年設立の独立行政法人。東京に本部を置き、国際的な文化交流プログラムを展開しています。芸術振興のほか、日本語教育、日本研究、知的交流を目的とした数多くのプログラムを実施。世界 24 か国に 25 の拠点を構える国際的なネットワークから、助成金や奨学金の付与、研修先の紹介などを行っています。 jpf.go.jp

【PRESS CONTACT】

ご質問、取材・掲載等のご希望がございましたら
プレス担当までお問い合わせください。

Japan

竹形尚子 (Daily Press) +81 3 6416 3201
naotakegata@dailypress.org

Worldwide

14 Septembre Milano - +39 02 35 999 293
Livia Grandi, livia@14septembre.com
Marina Zanetta, marinazanetta@14septembre.com
Francesca Ramasso, francescaramasso@14septembre.com

UK

14 Septembre London - +44 (0)203 701 7520
Rebecca Mitchell, rebeccamitchell@14septembre.com

USA

BDE - +1 212 353 1383
Beth Massey, beth.massey@bdeonline.biz

Organized by



**MICHELANGELO
FOUNDATION**
FOR CREATIVITY
AND CRAFTSMANSHIP

In partnership with



JAPAN FOUNDATION



**FONDAZIONE
COLOGNI**
MESTIERI D'ARTE



**FONDAZIONE
GIORGIO CINI**